心を伝えるコミュニケーションには、いつでも紙があります。
人と紙の未来を見つめて 日本紙パルプ商事
東京都中央区日本橋本石町4-6-11 〒103-8641
電話 03-3270-1311（代表）
www.kamipa.co.jp

「創造への挑戦」紙の新しい可能性を拓く日本紙通商
日本製紙グループ
日本紙通商株式会社
NP TRADING

王子製紙株式会社
〒104-0061 東京都中央区銀座4-7-5 TEL03(3563)1111
http://www.ojipaper.co.jp

Activation and Evolution
ダイナミズムに溢れる企業への進化を目指して。
日本製紙パピリア株式会社
NIPPON PAPER PAPYLIA
本社 〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1-2-2
TEL 03-6665-5800 FAX 03-3212-0550
大阪営業支店 〒541-0048 大阪府大阪市中央区瓦町3-4-7
TEL 06-6226-1621 FAX 06-6226-1624

これからの「ハイグレード&情報メディア」
MITSUBISHI PAPER MILLS LIMITED 三菱製紙株式会社
東京都千代田区丸の内3-4-2新日石ビル TEL03-3213-3751
http://www.mpm.co.jp

海外展開進む

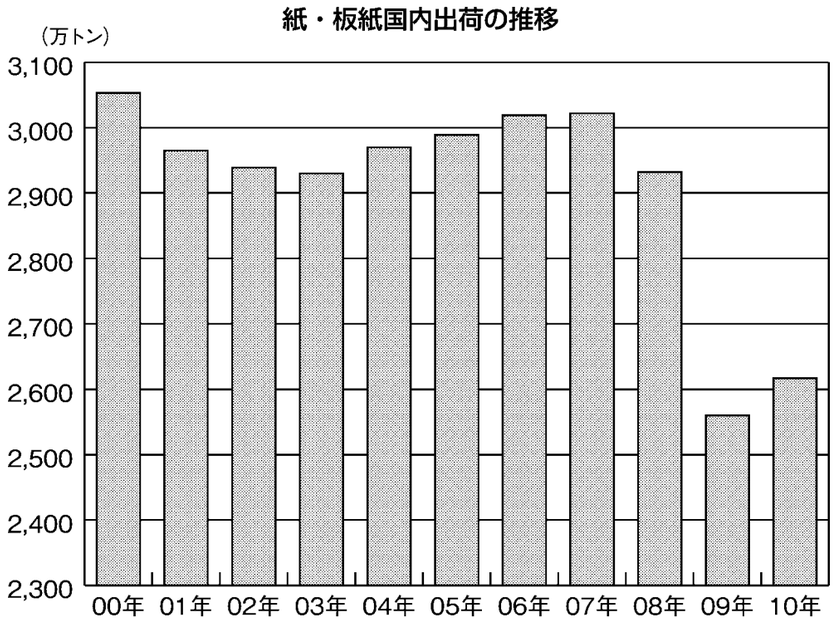
紙・パルプ産業

アジア・オセアニアで大型投資や市場拡大

内需依存型から変化

内需依存型産業の紙・パルプ業界が、海外展開に注力している。2008年秋のリーマン・ショックの影響を受け、紙の需要は大きく落ち込んだ。現在、回復傾向にはあるが、「ピーク時には戻らないだろう」（篠田和久日本製紙連合会会長＝王子製紙社長）というのが業界関係者の見方だ。国内の過剰設備は既に稼働を停止させ、これからは本格的に海外の成長市場を開拓していく。また併せて、植林活動や森林整備などの課題にも取り組む。

紙・板紙国内出荷の推移



※10年は推定　（出典：日本製紙連合会）

生産拠点を増強

日本製紙連合会によると、10年の紙・板紙の国内出荷は2617万8540トンと推定される（**グラフ**）。リーマン・ショックの影響で急減した09年を除けば、89年の水準にまで落ち込んだことになる。企業のチラシ、カタログの減少などで、印刷・情報紙の需要増は見込めない。さらに、「直接的に紙需要にどのような影響を与えるかは不明」と言われているが、タブレット端末のiPad（アイパッド）などによる電子書籍の普及も無視できない。当面、国内出荷が年3000万トンレベルまで回復するのは難しいと見られている。

国内市場の拡大が見込めない中で、内需依存型産業であった製紙会社は成長する海外市場の開拓に乗り出している。王子製紙は投資戦略の重点分野の一つに海外事業を掲げる。その中でも大型プロジェクトとして、約20億ドルを投資して中国に南通工場（江蘇省南通市）を設立し、稼働させた。

▲王子製紙が中国に設立した南通工場

M&A視野

南通工場は塗工紙と上質紙を生産し、生産能力は年間40万トンだ。2号マシンも、中国の紙需要動向を見ながら設置時期を検討する。また、13年にはクラフトパルプの製造設備も稼働させる計画だ。王子製紙は海外事業を拡大し、売上高に占める海外比率を現在の10％弱から将来は20％にまで引き上げる考えだ。

日本製紙グループ本社もM&A（合併・買収）を視野に入れながら海外展開を強化する。アジア・オセアニア市場を新たな柱として位置付け、豪州のオーストラリアン・ペーパーの全株式取得や、台湾の永豊餘造紙股份有限公司の板紙事業への出資、中国で段ボール原紙生産量2位の理文造紙（L&M）との資本業務提携など積極的に動いている。

海外市場の開拓は製紙会社にとって重要課題だが、海外での生産拠点の新設や事業買収は財務基盤が必要だ。大型投資をせず、戦略的な輸出拡大で海外販売を増やしているのが北越紀州製紙だ。10年4－9月期は前年同期の2倍以上となる10万3000トンを輸出し、年間でも20万トンの輸出を計画する。輸出の増加により、販売増に加え工場の稼働率も向上した。

林業の課題解決に一役

森林の保護

製紙会社は植林を積極的に進めており、日本製紙グループ本社は海外植林プロジェクト「Tree Farm構想」を推進する。木を育てて毎年の成長量分のみを収穫し、紙の原料として利用することで持続可能な原材料調達を図る。15年までに20万ヘクタール以上という当初の目標はほぼ達成確実だという。同社はさらなる植林活動に取り組む構えだ。

また、植林だけでなく森林整備も着実に進められている。日本の森林の課題の一つが路網整備の遅れだ。建設機械が山中まで入れず、森林の手入れが行き届かない。樹木によっては50年程度で伐採期を迎えるのだが、放置されたままのほか、間伐材が山中に捨て置かれていることもある。

そこで王子製紙は、社有林を核として周辺の民有林とも協力し、次世代林業に向けた取り組みを作業道を開設し、高性能な林業機械を用いて生産性向上や効率化を図る。共同で取り組むことでスケールメリットを得て、採算性の合う間伐材利用を目指す。島村元明執行役員資源戦略本部長は「切り捨て間伐を、利用間伐に切り替えていく」と意欲的だ。愛媛県では住友林業と協力して同様の取り組みを進めている。

日本製紙グループ本社の海外植林

間伐材活用

さらに、非営利団体（NPO）「オフィス町内会」が、製紙会社と環境保護に関心の高い企業と一緒に間伐材利用の促進として取り組む「森の町内会」活動が広がっている。間伐に寄与する紙の使用実績は、06年度の55・7トンから09年度は550・1トンと大幅に増加した。

同活動は、王子製紙や日本製紙グループ本社、三菱製紙など協力する製紙会社の工場が間伐材チップを受け入れ、製紙原料の一部として使用する。そして、間伐材使用に賛同する企業・団体に、通常の紙代金に間伐促進費として1キログラム当たり15円を上乗せして購入してもらう。間伐促進費は、間伐と間伐材の有効利用に充てられる。

I'm ニッポン！
紙の未来へ―日本製紙のバイオ技術。
いろんな苗を増殖する。
じつは、そんなワザもってます。

大きく育つ木を選び、その苗をたくさんつくって植林するために、
日本製紙は独自のバイオテクノロジーを培ってきました。
その中のひとつ、紙の原料となる木の苗を、より早く均一に育てるために開発した
「光独立栄養培養」。これを応用し、「挿し木苗事業」にも取り組んでおり、
お茶、果樹、園芸用植物など、さまざまな植物の苗を生産しています。

NIPPON PAPER INDUSTRIES
日本製紙株式会社
東京都千代田区一ツ橋1-2-2 〒100-0003
TEL.03-6665-1111　www.np-g.com/

やさしく触れていいですか。
エリエール®

www.elleair-plus-water.com
大王製紙株式会社　www.elleair.jp

高品質で応える

ニューマチック工業　検索
http://www.pneumatic.co.jp/
ニューマチック工業株式会社
本社 〒555-0043 大阪市西淀川区大野1丁目12番32号
TEL06-6475-1031　FAX06-6475-0880
E-mail：sales@pneumatic.co.jp